

フィグ・ヤーパン通信

第30号

FIGU-JAPAN BERICHT, Nr.30

発行日 2007年4月1日

発行 フィグ・ヤーパン <http://jp.figu.org/>

UFO写真展が開催されました

フィグ・ヤーパンでは、去る1月25日から30日まで6日間の日程で、「ビリー・マイヤーUFO写真展」を開催しました。ビリーはこれまでに、直径3.5メートルから7メートルに及ぶ複数種類の宇宙船を数百枚撮影しています。これらの宇宙船は、一般的には生命体によって操縦されるものですが、その他にも無人宇宙船やテレメーター円盤、また宇宙間を飛行する大型船が存在します。宇宙船は、単独あるいは編隊を組んでおり、撮影は日中、夜間を問わずに行われました。これらの写真は、ビリーが真のコンタクティーであることの証拠の一環として、地球外知的生命から撮影を許可されたものです。いずれの写真も比類なく鮮明なものであるため、見る者を無関心にはおかず、これまで世界中で真偽論争を巻き起こしてきました。

写真展では、ビリーの撮影した写真の中から、代表的なものを20数枚選び、大伸ばししてフレームに収めたものを展示しました。初めての試みとなった写真展の開催場所は、フィグ・ヤーパン事務所に程近い、八王子駅前の好立地に位置するギャラリーです。写真展の運営には、ボランティアスタッフも駆けつけてくださいました。幸い天候にも恵まれ、延べ110名の来場者を迎えることができました。来場者の大半は、フィグ・ヤーパンのホームページまたは本誌『フィグ・ヤーパン通信』をご覧になった読者の方々でした。その他、通りでポスターを見て興味を持たれた若い年齢層の方が多かったように思

われます。入場者の多くが集中した土日の休日には、家族連れや買い物途中の方も多くお見えになりました。また、学園都市八王子での開催となったことから、好奇心を持った学生も多く来場していたようです。運営スタッフは、鮮明な写真を目の当たりにした来場者から、「これは本物のUFOですか？」という質問をよく受けました。また、会場には写真以外にUFO飛行音の視聴コーナーを設けていましたが、「この音は当時のシンセサイザーの技術では制作は無理でしょう」といった鋭い感想を述べる音楽関係者に詳しい来場者もいらっしゃいました。その他、フィグ・ヤーパンの書籍類の販売コーナーも設け、興味を持たれた方に書籍や小冊子、絵葉書等をお求めいただくことができました。

写真展の開催中、会場運営を手伝ってくださったボランティアスタッフの方々に、この場を借りて御礼申し上げます。また、お花や差し入れをいただいた読者の方々にも、厚く御礼申し上げます。フィグ・ヤーパンでは、今後も機会を作り、写真展を開催したい所存です。



— UFO 地球外からやってきた宇宙船 —



© FIGU

私とプレアデス/プレヤール人とのコンタクトおよび友好関係が始まったのは、1940年代始めにさかのぼる。そのとき初めて一人の地球外生命体が私にコンタクトしてきたのだ。それはスファートという名の、非常に高齢で威厳に満ち溢れた男だった。スファートとのコンタクトは1953年まで続いたが、その間スファートは私に多くの知識を伝え、教示し、そして私がずっと後に引き受けて果たすことになっている使命、すなわち次のようなミッションを持った告知者として登場することに向けて準備させた。そのミッションとは、世界中でUFO論争を終結させて、UFO現象が公式に知られるようになり、官庁や軍隊もそれを認めざるを得なくなるようにするとともに、私に伝えられた霊の教えを人間に再び開示することである。その教えは、人間が創造の法則と掟に背く前、まだ最初期の良き時代に地球人に与えられた教えと同じ価値を持ったものである。そして私は1975年1月28日以来、この使命を果たすべく努めてきた。それはまさに別の地球外生命体、すなわちビームシップの女性操縦士セミヤーゼとの

コンタクトが始まった日にほかならない。セミヤーゼの故郷の天体は、我々の時間水準からずれているが同じ方向に向いた次元に存在するプレアデス星団(スバル)にある。

1953年にスファートが去ったあとも、地球外生命体とのコンタクトは中断されることはなかった。というのもアスケットという名前の別の地球外生命体によってコンタクトが維持されたからである。ダル宇宙、すなわち我々の宇宙に隣接した平行宇宙から来た女性である。アスケットとのコンタクトは1964年まで続いたが、その後インドで中断された。アスケットは地球での使命を終えたので、自分の宇宙に帰還しなければならなかったのだ。それから10年間、地球外知的生命体とのコンタクトがない状態が1975年1月28日まで続いた。この日、セミヤーゼとの最初のコンタクトが行われたのである。それは予定されていたより1年早かった。



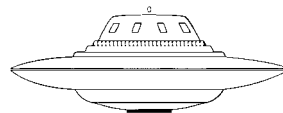
© FIGU

撮影日：1975年2月27日

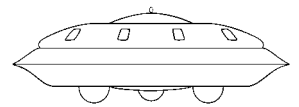
撮影時刻：10:00

場所：ヤコブスベルク・アレンベルク、ベッツウィル、ベレーツウィル/チューリヒ、スイス

飛行物体：プレアデス人のビームシップ、操縦はセミヤーゼ、クウェツアル（宇宙ステーション司令官）、その他2名の無名の操縦士。（ビームシップと2機の偵察機のデモンストレーション飛行）



ビームシップ1型



偵察機

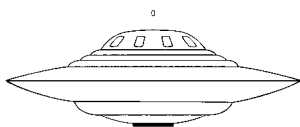


撮影日：1975年2月27日

撮影時刻：16：51

場所：フクスビュール・ホーフハルデン、オーバーバルム近郊、ウェツィコーン／チューリヒ、スイス

飛行物体：プレアデス人のビームシップ、操縦はセミヤーゼ（デモンストレーション飛行中のセミヤーゼのビームシップ）



ビームシップ2型

大型のビームシップは直径7mで宇宙空間も飛行可能である。小型ビームシップ（偵察機）は直径約3.5mで、惑星近辺しか飛行できない。

ビームシップの金属は純粋な鉛から回収された（転換された）合金で作られている。この合金は精密なデータに基づき他のいかなる金属も添加せずに鉛から作られ、銅・ニッケル・銀合金と呼ばれる。特殊なタイプのビームシップには、この合金にさらに金を添加する（コンタクト記録シリーズ参照）。

私が見た星人

私はいろいろな世界のさまざまな星人を個人的に知っている。彼らの種類や性格に関する多くのこと、彼らを動かす願望や夢も知っている。しかしまた彼らのメンタリティーに関する事柄やその他無数のこともわかるようになった。私はほぼ40年間に渡って積重ねた知識のおかげで彼らのことをかなり良く判断できる。しかも私はそうしたことを主張したり弁護したりする際に、言葉や解釈の点で背伸びをすることはしない。不遜も誇大妄想も感じない。な

ぜならそれは完全な真実であり、私はそれに何一つ加えることもなければ、取り去ることもないからである。私が良心からこのように言えるのは、すべてをきわめて客観的かつ中立的に観察し、先入観を排して真実のみに注意を向けることを学んできたからである。それゆえ私は良心にやましいところなく説明することができるのである。

どのような地球外の人間の生命体も性質に関しては地球人とそれほど異ならない。すべての地球外生命体も否定的なものや肯定的なものに組み入れられているという点では、地球人自身と全然変わらない。地球の種々の民族や個々の地球人と同じように、彼らもまた性格やメンタリティーはさまざまである。異なるのは解剖学的な構造と肌の色と身長くらいなものだが、これとて全部に当てはまるわけではない。しかし全体として見れば、広大な宇宙の中の別の世界に住んでいるすべての人間の生命体は、絶対に人間として識別される。なぜなら彼らが人間の形態をしていることは疑いのないことだからである。彼らはその外見においても性質においても、超越的なものや完全なものを備えてはいない。これとは別の主張はまったくの空想であるか、さもなければ嘘である。どんな人種にもこの世のものとは思えない美しさとか、それに類するナンセンスは確認されない。このことが私が会うことはおろか、一度も目にする機会がなかった地球外生命体にも当てはまるということは、地球外生命体が私に保証した通りである。しかし宇宙全体には4,000万種類以上、正確には4,035万3,607種類の人種が住み、343通りの肌の色をしている。（これに関する最も正確なデータは非常に高度なペターレ霊水準から私に伝えられた『創世記』に記されている）。



（出典：UFOs Raumschiffe von fremden Welten）

『生命の哲学』



生命の哲学
 (水瓶座時代出版刊)
 装丁：A5判
 頁数：100ページ
 定価：1,000円(税込み)
 発売：2月1日
 重量：150g

霊の教えとは何か

霊の教えは人々に自分の想念や感情や情動、さらに日々の生活における自分の活動や行動に実際に関連づけた教えを与える。そのための掬もしくは推奨があるが、それらは主として次の49の原則で表現される(前号からの続き)。

- 12) 人間はだれも安易に信仰に身を任せてしまっ
て、論理、悟性および理性によってみずからの
内に真理の事実性を探求して認識し、自分の生
活や生活様式を通して実践し遵守しなければ、
長年あるいは一生涯にわたって探し求める本当
の真理を発見することは決してできない。
- 13) 人間はだれも自分の知識、能力、真の愛情、
本当の幸福、能力と可能性、そして英知と人間
性を進歩的に形成し実践して、人間にふさわし
い真に進化的な人生を送るとともに、同胞に対
してもこの方法で力になれることに最高の目標
を見出すべきである。
- 14) 人間はだれも何よりも自分自身、したがって
自分の人格、自分の性格、自分の徳、想念、感
情および行為に心を配って、すべてが正当であ
るように、また誤った目標を追いかけ、非現実
的な事柄の信仰にはまり込むことのないよう全
力を尽くさなければならない。
- 15) 人間はだれもその収入や財産を分別のあるや
り方で管理して、非現実的な信仰の事柄に浪費

してはならない。なぜならば、だれもが正当な
存在でなければならず、またそれなりの可能性
と生存が与えられているならば、自分自身の面
倒を見、不当にも同胞に負担をかけたり、寄食
者のように振る舞ったりすることのないように
すべきだからである。

- 16) 人間はだれも常に現在を生きるとともに、未
来を見つめ、その形成に配慮しなければならない。
しかし、その一方で過去を考察し、そこから学
んで、成功、認識および進歩を達成しなければ
ならない。
- 17) 人間はだれも平穏と平和を必要としている。
それゆえ人間はまた自分の静かな時間を必要と
し、絶えず忙殺されているべきではない。それ
は一人でいるときでも、同胞と集うときでも、
家族や集団においてもそうである。人間はだれ
も無為を必要としている。なぜならば、そうし
た無為によってのみ心を落ち着け、自己を回復
できるからである。しかし自分自身の想念や感
情が犠牲にされたり、憤懣の種になったりする
ことがないように、また同胞の怒りを招くこと
がないように、無為は常に適度なものとどめ、
度を越してはならない。
- 18) 人間はだれも絶えず真理のみを求め、決して
救済の教えを求めたりしないように常に心掛け
なければならない。なぜならばそのようなもの
は本当は哲学、宗教、世俗、教派、その他のイ
デオロギーの流派にも、学問の流派にも存在し

- ないからである。救済の教えはいずれにせよ、いつも信仰上の詐欺か、少なくともいかにまか、犯罪的な金儲けに等しい。本当に価値があるのは、常に実在、すなわち健全な悟性と理性の使用と現実的な論理の上に築かれた現実のみである。
- 19) 人間はだれも同胞に対して率直で正直でなければならず、どのような理由からであれ、思い上がって同胞に害が生じるような仕方では支配してはならない。これは家族の中でも、どのような集団においても、酷評や冷遇、その他不当なことが起きないようにするために言えることである。
- 20) 人間はだれも自分の内面的な自由と外面的な自由で注意を払って、純然たる物質的な事柄や価値であれ、家族や何らかの集団における人間関係であれ、束縛を脱することができなくなる、あるいは解放への措置に不安を感じさせるような事柄に決して縛られてはいけない。
- 21) 人間はだれも政治、哲学、教派、世俗、科学、宗教、またはその他イデオロギーの何らかの形態を、決して「真の真理」とか「本当の真の知識」などとして受け入れたり、理解したりしないよう、常に注意すべきである。なぜならば、実際にどんな教えも極めて子細に検討すべきであり、そうすることによってのみ実際の真理を究め、現実を知ることができるからである。
- 22) 人間はだれも、自分の生きた人生が、たとえそれが何年であろうと、目的も意味もなかったというようなことは決してないことを常にはっきり認識していなければならない。生きられた人生はそれ自体において何も失ってはいない。なぜならば、生きられた各々の瞬間が確実にその意図を満たし、たとえ結果はわずかにすぎなかったとしても進化の成果をもたらしたからである。
- 23) 人間はだれも感覚を常に明晰で理性的に保つべきであり、自分で熟考し、思案し、究明し、認識し、理解する可能性を奪うような持続的な感化力を持った何らかの教えに身をゆだねてはならない。人間が何らかの事柄や教えとかかわろうとするときは、十分な時間をかけて自分の想念と感情、熟慮と着想などを働かせて、すべてを徹底的に究明し、自分自身の内に結論と真実を見出すことができる可能性を常に考慮しなければならない。
- 24) 人間はだれも人間関係を大事にし、家族の絆や、友人、仲間および知人との関係に打ち込むよう、注意を払わなければならない。両親、兄弟姉妹、友人および同胞全体は常に喜びと平和の泉でなければならず、しかもそれはあらゆる点で結び付け、広げる作用を持つ自由に基づくものでなければならない。
- 25) 人間はだれも人生が有意義なものであり、安心感と庇護されているという感情を伝えることができるよう、注意を払わなければならない。このような感情は同胞と一緒にいるときでも、自分一人であるときでも表われなければならない。
- 26) 人間はだれも自分の人生に愛、幸福、喜び、平和、調和、平衡および自由を見出せるように、自分の人生を充実したものに形成しなければならない。
- 27) 現実に即して生きようとする人間はだれも健全な自尊心と自信を抱き、持ち続けなければならない。なぜならば、そうすることによってのみ自分自身に関して健全で自分を維持する進歩的な想念、感情や行動が有効に働くことができるからである。
- 28) 人間はだれも常にどんなときでもその礼儀や徳性、仕事や意見、知識や教養において、身近な周囲だけでなく、より広い社会においても真の人間として認められ尊敬されるように振る舞わなければならない。
- 29) 人間はだれもこの世を去った後も自分について良い思い出を残し、死後はうるわしい想念の中に生き続けることができるように生きなければならない。
- 30) 人間はだれも自分の人生に同胞が関心を持ち、彼らの想念と感情の中で自分が尊敬されるように生きなければならない。その中には邪悪な関心を持った敵もいようが、彼らを許す方がいい。なぜならば、憎しみではなく、平和と許しこそが愛の所業だからである。

- 31) 人間はだれも同胞の良き共同体に囲まれているのを感じるべきである。人生の共通体験が愛と平和、自由と調和、そして各人の幸福を増進するであろう。
- 32) 人間はだれもその人生において想念と感情の豊かなものや、自発的なもの、愛情に溢れたものを発達させることができるよう熱心に努めなければならない。そうすれば自発的に、またある点においては慎重に各人の人生が常に新しく、善意と喜びに満ちた肯定的な方向を見出すであろう。
- 33) 人間はだれも一生のあいだずっと、あらゆる点で自ら人生を充実させ、そして学習や知識の収集において、英知の形成において、満足のゆく仕事の遂行において、真の愛と調和および十分な配慮において平和と自由を守るように努力しなければならない。
- 34) 人間はだれも常にすべての事柄に対して心を開くべきである。そうすればその人生において絶えず多くの神秘的なものや興味をそそるものを見出すことができる。それらは人間を驚かせ、感嘆させ、その喜ばしい^{きょうがく}驚愕は息もつかせず、いつまでも若さを保たせるだろう。
- 35) 人間はだれも、たとえ自分に対して敵意を抱いていようとも、すべての人間と率直、良好で、愛情に満ち、平和で調和の取れた自由な関係を維持すべきである。憎しみは原則として隣人を害することはなく、憎んでいる当の人間自身を害する。なぜなら自らの憎しみを満足させることは当人の恥辱となるからだ。
- 36) 人間はだれも人生や人間存在の意義に関する問いに常に心を開き、そうした問いを一つの欲求として、それらについて熟考し、また同胞と語り合って真理の認識を得なければならない。
- 37) 人間はだれも自分にとって重要なことは同胞にも伝えて説明でき、それについて理解が得られるという感情と確信を持たなければならない。
- 38) 人間はだれも自分を悩ませ苦しめるものは同胞に理解され、それについて有益な助言や、その他の援助を期待できるという感情と確信を持たなければならない。
- 39) 人間はだれも自分の人生が自分自身にとっても、自分の家族にとっても、自分の縁故関係や共同体にとっても、あらゆる肯定的な意味において有利で有益なものとなるように、堂々と生きなければならない。
- 40) 人間はだれも問題や紛争から安易に逃げ出すことなく、それらを解決する方法を探し、克服するよう努めるべきである。
- 41) 人間はだれも人生に出現するあらゆる課題や困難と向き合い、それらを乗り越えることができるように、十分な自信と健全な自尊心を築く義務がある。
- 42) 人間はだれも自分や同胞に発生する何らかの緊迫した事態にうろたえたり、落ち着きを失ったり、不安になったりすることがないように常に心掛けなければならない。
- 43) 人間はだれも可能な限り人生のあらゆる状況を意識し、慎重に形成すべきである。
- 44) 人間はだれもたとえ不鮮明で混乱した不愉快な状況下におかれても、自分を打ちひしぐような想念や感情に陥らないように自己形成すべきである。
- 45) 人間はだれも気の進まない想念や感情を解きほぐし、適切に対処して、それらに身をゆだねることがないように絶えず備えていなければならない。
- 46) 人間はだれも同胞と交流をはかり、それによって自分の姿勢を表現し、自分の意見や学習の関心を表明するように努めなければならない。
- 47) 人間はだれも自分の人生における目標を定め、これらの目標を思慮、注意深さ、関心、動機、そして自信をもって追求し、達成すべきである。
- 48) 人間はだれも、いかなる状況にあっても自分の人生を生きるに値するものと認めなければならない。
- 49) 人間はだれも自分の行動を自分自身で決めなければならない。外的な事情や、同胞や、宗教、教派、哲学、科学または何らかのイデオロギーによって決めてはならない。

(出典：『生命の哲学』)

フィグ・ヤーパンからのお知らせ

□ これから出る本 □

コンタクトシリーズ第4巻となる、『プレアデス／プレヤール人とのコンタクト記録(4)』につきましては、ただいま順調に校正・編集作業が進んでいます。次号7月発行の『フィグ・ヤーパン通信第31号』及びホームページにて、新刊のご案内を差し上げる予定で、フィグ・ヤーパンスタッフ一同、日夜努力しています。

この他、人間の精神的な機能について霊的な側面からも詳しく解説されている『心(仮題)』については、2名の翻訳者による翻訳・校正作業を終え、現在内部校正を実施中です。さらに、ビリーが高次の霊水準からのインスピレーションを受けて記した『アラハト・アテルザータ』についても、2名の翻訳者による翻訳・校正作業を終えた段階にあります。また、かつて徳間書店から出版されていた『宇宙の深遠より』についても、水瓶座時代出版からの改訂版出版に向けて、校正作業が順調に進められています。今後のフィグ・ヤーパンの出版活動に、どうぞご期待ください。

□ 全国読者集会のお知らせ □

フィグ・ヤーパンでは、恒例となりました全国読者集会を秋頃に開催する予定で準備を進めています。読者集会は、全国の読者が一堂に会する貴重な機会です。今年で9回目の開催となります。全国の読者の皆様が書物を通じた出会いと交流を深める絶好のチャンスです。どうぞご期待ください。

□ 送料改定のお知らせ □

フィグ・ヤーパンでは、書籍や小冊子の重量に対応した送料体系を設定しております。この度、書籍類の種類数増加に伴い、より簡単にご購入いただくことができるように、4,000円以上お買い上げの場合、送料を一律に無料とさせていただきます。この新しい送料制度は、4月9日以降に書籍類をお求めいただく場合に適用されます。まだご覧いただけていない書籍や小冊子類、ビデオ等がありましたら、この機会に是非お求め下さいますようお願いいたします。

□ UFO写真展が開催されました □

巻頭でご報告しましたが、フィグ・ヤーパン初めての試みとして、1月25日から6日間の日程で、「ビリー・マイヤーUFO写真展」を開催しました。ボランティアスタッフのご協力をいただき、無事成功することができました。フィグ・ヤーパンでは、多くの皆様に貴重な記録写真を実際にご覧いただくため、今後も全国で写真展を開催したい所存です。読者の皆様でギャラリーをお貸しくださる方、ボランティアスタッフとして写真展にご協力くださる方は、フィグ・ヤーパンまでご一報いただければ幸いです。



□ 住所変更をお知らせください □

年度が始まるこの季節には、住所を変更される読者の方が毎年多くいらっしゃいます。お引越しの際には、フィグ・ヤーパンにも住所変更をお知らせください。住所変更のご連絡は、FAX：042(637)1524、電子メール：info@jp.figu.orgあるいは葉書にて承ります。

『フィグ・ヤーパン通信』は読者の皆様を対象とした無料の広報誌です。本誌の購読停止をご希望の際には、たいへんお手数ですがフィグ・ヤーパン事務所までご一報くださいますようお願いいたします。

出版物のご案内

■プレアデス／プレヤール人とのコンタクト記録(1)

価格 2,000 円 (税込 送料別 375 グラム)

■プレアデス／プレヤール人とのコンタクト記録(2)

価格 2,000 円 (税込 送料別 440 グラム)

■プレアデス／プレヤール人とのコンタクト記録(3)

価格 2,000 円 (税込 送料別 335 グラム)

■瞑想入門

価格 3,200 円 (税込 送料別 815 グラム)

■わずかばかりの知識と知覚そして知恵(新風舎刊)

価格 3,150 円 (税込 送料別 870 グラム)

■宇宙の深遠より 一地球外知的生命プレアデスとのコンタクト (徳間書店刊)

価格 2,940 円 (税込 送料別 550 グラム)

■生命の哲学

価格 1,000 円 (税込 送料別 150 グラム)

■日本語版 水瓶座時代の声

価格 各 1,000 円 (税込)

83/2 号 (特集) (送料別 105 グラム)

87/1 号 (特集) (送料別 140 グラム)

91/1 号 (特集) (送料別 135 グラム)

■第 235 回会見

価格 500 円 (税込 送料別 70 グラム)

■日本語版 FIGU 公報

6 号 価格 500 円 (税込 送料別 90 グラム)

30 号 価格 500 円 (税込 送料別 155 グラム)

38 号 価格 500 円 (税込 送料別 160 グラム)

■精神と物質の生命

価格 500 円 (税込 送料別 55 グラム)

■ビリーの少年時代の著作

価格 500 円 (税込 送料別 95 グラム)

■預言者エレミヤとエリヤの予告

価格 400 円 (税込 送料別 70 グラム)

■エノクの預言

価格 300 円 (税込 送料別 55 グラム)

■『瞑想入門』の手引き

価格 300 円 (税込 送料別 70 グラム)

■地球に平和あれ

価格 300 円 (税込 送料別 55 グラム)

■FIGUの原則あるいは人間の原則

価格 300 円 (税込 送料別 40 グラム)

※このページに掲載した以外にも多数の書籍があります。ホームページ等をご覧いただくか、フィグ・ヤーパンまでお問い合わせください。

□ 書籍のご注文について □

すべての書籍・ビデオ類のご注文は、郵便振替にて承っております。ご希望の書籍・ビデオ代金に以下の郵便料金を加えた金額を、お近くの郵便局から下記フィグ・ヤーパンの口座宛にお振込みください。なお、現金書留および切手同封による直接のお申し込みはご遠慮ください。

□ 郵便料金表 □

50 グラムまで 120 円	500 グラムまで 290 円
100 グラムまで 140 円	1000 グラムまで 340 円
150 グラムまで 180 円	2000 グラムまで 450 円
250 グラムまで 210 円	3000 グラムまで 590 円

※4,000 円以上お買い上げの場合、郵送料は無料となります。

□ 振込用紙の記入欄 □

口座番号：00160-4-655758

加入者名：FIGU-JAPAN

(アルファベットで記入して下さい)

金額：送料を含めた合計金額

払込人：あなたの住所、氏名、電話番号

通信欄：購入する書籍名と冊数

フィグ・ヤーパン通信 第 30 号 (無料)

発行日 2007 年 4 月 1 日

発行 フィグ・ヤーパン (FIGU-JAPAN)

住所 〒192-0916

東京都八王子市みなみ野 3-11-2-305

電話 042(635)3741

FAX 042(637)1524

URL <http://jp.figu.org/>

E-mail info@jp.figu.org

郵便振替 00160-4-655758

加入者名 FIGU-JAPAN

本書の全部または一部を無断で複製複製することは、著作権法上の例外を除き禁じられています。本書からの複製を希望される場合は、フィグ・ヤーパンにご連絡ください。

Copyright (c) 2007 by FIGU-JAPAN. All rights reserved.